

町の空き家対策と 土佐原林道の進捗状況を問う



質問者
飯田 一 議員



総務省が発表した令和5年度の住宅・土地統計調査によると、2023年10月1日現在日本の空き家は全体の13.8%を占め、7戸に1戸が空き家であり、過去最高で年々増加傾向にあると報告されています。

質 町内の空き家の現状と問題点は。

答 令和6年本町の調査によると、空き家の可能性のある物件は123件と把握している。発生要因については相続に起因するものが多く、土地も含め権利関係の複雑さが原因となっている。

質 町の移住・定住対策を含め空き家の有効利用について町の取り組みは。

答 空き家にしない予防・準備が必要と考える。

町では毎年送付する固定資産税の通知の中に空き家問題への対策の資料を同封し啓発に努めている。令和5～6年度で改修・解体計15件の利用があり効果が出始めている。

啓発の皆様の道 路の確保に取り組む 空家問題に対する町の安全・安心につな

回答（町長）



質 近年の想定外の災害の多さと南海トラフ巨大地震、国府津・松田断層など今後予想される大地

震等での寄地区の孤立を防ぐためにも、主要道路である県道710号に事故があったときの代替道路の早期整備が求められると思います。そこで、秦野方面への生活道路として利用されているが、土佐原林道の町道移管の進捗状況と今後の計画についてお伺いします。

答 林道の改良工事の進捗率は約76%であるが相続未登記等、所有者の調査が難航している状況で町への移管時期の目途は立っていない。将来的には国・県道としての整備の可能性も模索し、寄地区の皆様の安全・安心につながる道路の確保に引き続き取り組んでいく。



チルドレンファーストの 推進に向けて



質問者
北村 和士 議員



質 チルドレンファーストとは、子育て支援を厚くすることにより、若い世代が親世代の近くに住み、子育てのフォローをしてもらうことができ、親世代としては、安心して生活できるという「子育て支援からはじまる高齢者福祉」の理念です。しかし、「子どもだけに手厚い松田町」と誤解されている方が多いかと思いますが、その対応策は。

答 6～8月で行うタウンミーティングの他に、広報やSNSでも発信を強化して、浸透率100%を目指し、ご理解頂けるよう対応する。

質 公園は子育て世帯がほぼ毎日行く最重要公共施設で、高齢者にとって

チルドレンファーストは「子育て支援からはじまる高齢者福祉」。その理念浸透を徹底し、町の未来を築きます！

回答（町長）



答 常に満足して頂ける状態にあるとは言えないと承知している。限られた予算の中で、まずは利用者の多い公園から整備を強化し、気持ちよくご利用いただける公園環境

の創出に尽力する。

質 若い世代が増えれば、町のいたるところで生じている担い手不足の課題解決の糸口にもなり得ます。「松田町こども・子育て応援宣言」を条例化して、松田町の指針として、町内外にPRしてはいかがか。

答 9月定例会に上程できるよう調整していく。松田町は消滅可能性都市から脱却したが、気を抜くことはできない。前任の町長も仰っていたように松田町の歴史と文化を守るためには若い世代が必要。そのために危機感をもって、松田町全体で一丸となるよう臨んでいく。



宮下児童公園